

防災特集①
((!!))
(全4回)

知っていますか 災害時の助け合いの基本 —自助・共助・公助—

固総務課地域安全対策係 ☎028(677)6029

災害は、いつ起こるか分かりません。
災害が起こった時の基本は「自助」「共助」「公助」
です。これらの基本を押さえ、今すぐ自分ができる
こと「自助」を充実させましょう。
災害から生き残るため、災害が起こっていない
今しかできない準備があります。

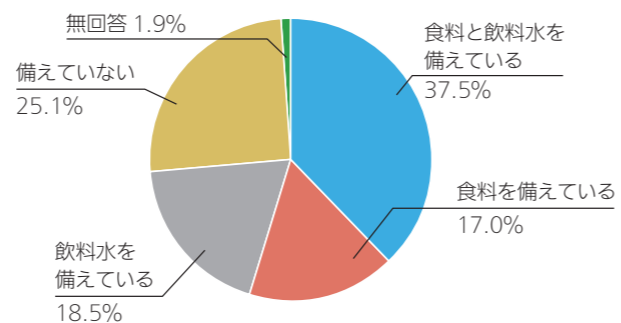
平成23年3月東日本大震災の町内の様子



自助

災害が発生した場合、まず初めにやることは「自分の命を守ること」です。これを「自助」と言います。
災害が発生したときの基本は自助です。「自分の命を守ることができるのは自分」だからです。自分や家族が助かるためには何が必要なのか日々想像しながら備えていくことが重要です。
今から備えられることとして、食料や飲料水の備蓄が挙げられます。令和3年度の町民満足度調査では、食料と飲料水を備えている人が37.5%でした。備蓄をすることは重要な自助の取り組みの一つです。十分な備蓄をして自助を強化しましょう。

あなたの家庭では災害時に備えて、3日分相当の食料や飲料水などを備蓄していますか。



令和3年度町民満足度調査より

共助

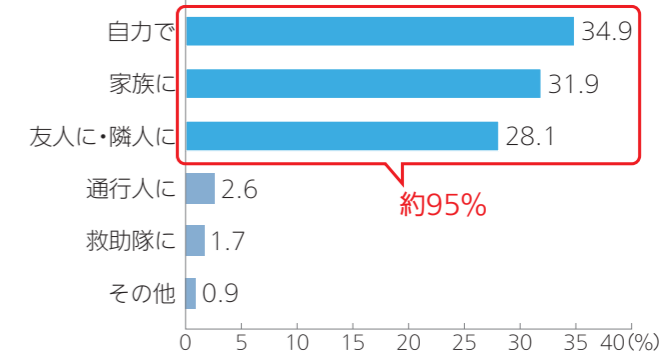
「自助」に続き、助けとなるのは近所の人や地域の人です。地域での助け合いを「共助」といいます。特に、高齢者や避難に支援が必要な人などの避難には、近隣の人々による共助が大きな役割を果たします。共助には、自治会で設置される自主防災組織による活動も含まれ、防災訓練や地域活動が、災害時に力を発揮します。

阪神・淡路大震災での生き埋めや閉じ込めなどからの救助状況のデータによると、救助隊の到着より早く、自力での救出や身近な人に助けられる人が大半を占めていることが分かります。

災害時に即戦力となる自助や共助の力が強い地域は、災害に強い地域と言えます。

阪神・淡路大震災における生き埋めや閉じ込められた際の救助の状況

(平成8年(1996年)11月)



(出典)令和2年版消防白書より、社団法人 日本火災学会「兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」(標本調査、神戸市内)

公助

地方自治体や消防、警察など公的機関が援助を行うのが「公助」です。町では、災害情報の周知、避難所の開設等を行います。災害が起こった場合の対応に加え、道路や河川の整備など、災害に強いまちづくりを進め、町民の防災意識の向上などに努めることも、町の大きな役割です。



昭和61年8月水害の町内の様子

今すぐ、自分ができること自助の取り組み

- ①情報収集手段の把握**
情報を得ることは、時期を逃さずに命を守る行動を取ることに繋がります。
町では「町防災メール」「緊急速報メール(エリアメール)」「町防災WEB」「Yahoo! 防災速報アプリ」などの方法で情報を発信します。状況に応じて活用できるように、準備しておきましょう。

②備蓄食料などの確保

災害時には、食料などの確保が難しくなる可能性があります。家庭での備蓄を進めましょう。消費しながら蓄える「ローリングストック」がおすすめです。



③家の状況確認

災害時、まず自分を守ってくれるのは建物です。家の周りに危険な場所は無い、耐震性は十分かを確認しましょう。

📱 早速確認！スマートフォンをご用意ください！

芳賀町防災メール

町の公式メールサービスです。地震情報や河川状況、避難情報などがメールで通知されます。コードを読み取り、空メールを送信してアドレスを登録しましょう。



町防災メール登録サイト▶



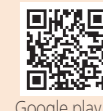
芳賀町防災WEB

町の公式防災ウェブサイトです。町からの情報の他、災害時に役立つリンクが掲載されています。お気に入りやブックマーク登録して、すぐに見られるようにしておきましょう。町防災WEB▶



Yahoo!防災アプリ

ヤフー株式会社が提供するアプリです。町からの情報を見ることができます。設定により警報や注意報、地震速報などが音やバイブレーションで通知されます。スマートフォンにインストールして、情報を得られるようにしておきましょう。



特集
①
特集
②
特集
③
特集
④
特集
⑤
特集
⑥
特集
⑦